

クラス番号	619	担当教員名	寺澤 法弘
テーマ	現代社会における精神保健福祉 PSW の視点からの取り組み		
著書・論文 研究課題等	【論文】「精神障害を持つ当事者におけるリカバリーに関する研究—N市内の精神障害者小規模作業所を利用する当事者への調査から—」(平成 17 年度修士学位論文) 「WRAP(元気回復行動計画)より得られる体験の意味—WRAP 名古屋の実践を通して—」日本福祉大学社会福祉学会「福祉研究」(第 105 号) 「WRAP(元気回復行動計画)集中クラス参加が、その後に及ぼす影響—集中クラス参加後の実態調査—」日本福祉大学社会福祉学会「福祉研究」(第 106 号) 【研究課題】精神疾患当事者・家族におけるリカバリー、PSW の成長、		

ゼミナール概要

キーワード：精神保健福祉 PSW リカバリー

<PSW としての原点> 私は大学時代に精神疾患を持つ人々と出会ったことで PSW を知りました。当時は国家資格ではありませんでしたので、PSW として働くためには「とにかく実習だ!」と考え精神科病院の見学を 30 ヶ所、精神科病院での実習を名古屋市、岡山區、広島県の 4 カ所合計 2 ヶ月行いました。社会福祉士実習も精神科病院が設立した救護施設へ宿泊して行いましたので精神保健福祉関連の実習は合計 3 ヶ月でした。卒業後は諸事情により PSW ではなく身体障害者授産施設に勤めたものの自分が働きたい場所とは違うという思いに至り退職しました。そんな時に北海道浦河町で活動する「べてるの家」の皆さんと出会い、そのまま押しかけて 1 ヶ月住み込みで滞在させて頂きました。今から 18 年前のことです。私の原点には学生時代と「べてるの家」で出会った当事者さん、家族、支援者との関わりがあります。今でも様々な形で関わりは続いています。

<問題意識とゼミでの目標> 私たちの社会は精神疾患を発症した体験があることで自分の能力を充分に発揮することが難しい状況にあると感じています。「疾患を経験したからこそ体験できる事もある」と精神疾患の体験者は発言し、多くの方がリカバリーの道を歩んでいるといった事実もあります。支援者には「社会資源の紹介や調整」だけではなく、就労、就学、結婚、出産、育児までを視野に入れた、まさに「その人の人生全体」を視野に入れた、支援が求められているといっても過言ではないように感じます。しかし、現実には精神保健福祉の現場で働く PSW がそこまでの支援ができていない状態だと認識しています。その原因は様々ですが、欠かせないのは PSW の姿勢とスキルアップだと考えます。その為にゼミでは SW に必要な力を身につける為にさまざまな取り組みを実施します。

<ゼミで取り組むこと> (詳細はゼミ生と相談して決めますが…)

3年次 「SW の基礎力を身につける」「卒業論文のテーマ検討から執筆スタートへ」

前期はゼミ生個々による施設見学と個別の研究テーマに関する発表会を実施。夏季休暇中は前期の学びをふまえて施設見学をゼミ生個々で 1 ヶ所以上行います。後期は各自の体験発表、卒論作成に向けて各自が深めたいテーマについての学び、合宿(3年生 春期休暇)をします。

4年次 「卒業論文の早期完成」「国家試験受験対策」

3年時後期より「過去問題からの出題」と「時事問題」をゼミ生が用意します。ゼミ生同士の相互支援により取り組みます。大学外の学びも欠かせません。研修会への参加、施設や家族会の見学、精神科医療機関で開催される行事を随時紹介していきますので活用して下さい。

担当教員からのメッセージ



皆さんは優劣をつけられる存在ではなく、そのままの皆さんが尊重される存在だと感じます。他者と比較をすることで自分の安心を得るのではなく、自分がどのような行動をするかを大切にしたいと考えます。その為の一步を踏み出しましょう。ゼミ生全員の体験から相互に学びあう豊かな場を目指しますので、ゼミでは人と関わることに喜びや面白さを感じる学生を歓迎します。エントリーシートには次の 2 点についても記してください。1. 将来の進路希望 2. 精神保健福祉関連の講義を受けて印象に残ったこと ★精神保健福祉士受験資格の取得を目指さない学生も歓迎しますが、精神保健福祉に関することをテーマとしますので、精神保健福祉分野に興味・関心があり学びを深めたい意思があることが必要です。